

順位表 11/10現在
基本 36試合消化時点

勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績（岐阜から見て）

1	大宮	84p	+41	69	28	A●
2	今治	67p	+22	60	38	A○ H○
3	富山	58p	+15	49	34	H△ A△
4	松本	54p	+14	58	44	A○ H●
5	FC大阪	54p	+11	41	30	A△ H○
6	福島	53p	+11	58	47	H○ A●
7	沼津	52p	+9	52	43	H● A●
8	北九州	52p	+1	37	36	H● A●
9	八戸	51p	+4	42	38	H● A●
10	相模原	50p	0	40	40	A△ H●
11	岐阜	49p	+6	60	54	---
12	金沢	47p	-2	49	51	A△ H○
13	琉球	47p	-6	44	50	H△
14	鳥取	47p	-16	48	64	A○ H●
15	宮崎	43p	-4	43	47	H● A○
16	讃岐	40p	-5	46	51	H○ A●
17	長野	36p	-11	43	54	A● H○
18	奈良	36p	-13	42	55	A● H△
19	YS横浜	32p	-28	30	58	A○ H○
20	岩手	22p	-49	26	75	H○ A○

1年間のご愛読
ありがとうございました。

大酒場 ホームラン

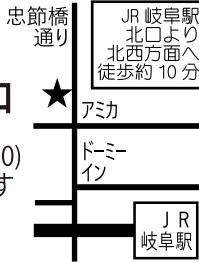
名鉄岐阜駅前（三菱UFJ銀行隣り）
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。
休:月曜日

今日もここから
串かつで一杯
煮込み珍道中
串かつ
14:30 ~ 22:00 (L.O. 21:00)
※売り切れ次第、終了です
<定休日:日曜・祝日>
TEL. 058-252-1580



通算対戦成績	全 8 試合 (J2: 6 試合、J3: 1 試合、ルヴァン杯: 1 試合) 岐阜 1 勝 / 大宮 6 勝 / 1 分け Jリーグ岐阜ホーム戦: 0 勝 1 分 3 敗			
直近の対戦結果	2024/03/13 ルヴァン杯1回戦@長良川 岐阜 1-2 大宮 得点者: 飯阪原尚平			
ここ 3 試合の 公式戦の 結果	岐阜	2024/11/10 J3-36節@富山 富山 2-2 岐阜 2024/11/02 J3-35節@長良川 岐阜 2-0 FC大阪 2024/10/26 J3-34節@長良川 岐阜 4-1 今治	大宮	2024/11/10 J3-36節@タピスタ 琉球 1-1 大宮 2024/11/02 J3-35節@NACK 大宮 5-4 鳥取 2024/10/27 J3-34節@ウエスタ 岩手 1-2 大宮

● J3 リーグ 2024 シーズンも最終盤、ようやく好調を取り戻してプレーオフ争いの可能性も見えてきた FC 岐阜。11/2 (土) 第 35 節・ホーム FC 大阪戦は、大雨でピッチ状態が悪い中、相手に押し込まれる展開が続く。我慢して守る岐阜は、後半 25 分に #19 松本歩夢がコースを狙い澄ましたミドルで先制に成功。後半 30 分には #16 西谷亮が縦へのボールに対して相手 DF を追い抜くスプリントで抜け出し、追いかけてきた #6 北龍磨にパス。これを #6 北が確実に決めて 2 点目。そして守備陣は無失点に抑えて 2-0、今季初の 4 連勝を達成した。続く 11/10 (日) 第 36 節・アウェイ富山戦は、序盤から激しい攻防が続くが、両者無得点で試合を折り返す。後半 10 分に富山が CK で先制点を奪うが、今度は岐阜が後半 27 分に FK で #4 甲斐健太郎のヘッドで同点に追いつき、後半 36 分と同じく FK で #39 遠藤元一のヘッドで逆転に成功。その 1 点を守る岐阜だったが、後半 AT、最後の攻撃で富山に同点弾を許してしまい 2-2 で試合終了。非常に悔しい結果となってしまった。

この 2 試合の結果、岐阜の順位は 14 位から 11 位へと上昇。しかし、岐阜と 6 位 (= プレーオフ出場圏)・福島との勝点差は、2 試合を消化して 4 と縮まっていない。上位では、首位・大宮と 2 位・今治が順位を確定させ、J2 自動昇格枠は埋まった。残りは J2 プレーオフ出場争いだ。3 位・富山は少し勝点差をつけているが、4 位・松本から 11 位・岐阜までの勝点差は 5、6 位・福島と 14 位・鳥取との勝点差は 6。残り 2 試合になっても、プレーオフ出場争いは今もなお大混戦だ。ただし、残り 2 試合を岐阜が全勝しても最終勝点は 55 で、福島の平均勝点から算出される最終勝点は 56。そして、一般的には 1 試合で縮められる勝点は 1 と言われている。直近 5 試合の勝利数 (勝点) は、岐阜が最も多いというポジティブな要素はあるものの、残念ながらプレーオフ出場圏に届く可能性は厳しいと言わざるを得ない。だが、可能性はゼロではないのも事実だ。まずは目の前の試合に集中して、最後までひたむきに走り続け、勝利することだけを考えよう。そして何より、ホーム最終戦は勝って笑顔で終わりたいのは、FC 岐阜に関係するすべての人が願っているはずだ。

さて、その大一番となるホーム最終戦の対戦相手は、大宮アルディージャだ。昨季は J2 で 10 番目の人件費 (7 億 9200 万。なお、昨季の J3 で人件費が最も多いのは松本の 5 億 1800 万、岐阜は 3 億 5800 万。) を誇りながら J3 に降格。今季は岡山などを指揮した長澤徹氏を監督に招聘して体制を刷新。開幕から 12 試合無敗記録を達成するなど快進撃を続け、(東北のクラブでも第 3 節はホーム開催とするための) 変則日程が解消された以降は一度も首位を譲ることなく、第 3 節で J3 優勝と 1 年での J2 復帰を実現。2020 年の秋田 (全 34 節を 28 戦無敗で J3 優勝達成) には及ばないが、現在は J3 最多得点・最少失点と、規格外の強さを誇るチームだ。なお、大宮は経営権がレッドブル社に移り、来季からは「RB (Rasen Ballsport: 芝生の球技の略とのこと) 大宮アルディージャ」として新たに活動することが決まっている。大宮との通算対戦成績は、岐阜の 1 勝 1 分 6 敗・4 得点 16 失点。ただし 2019 年以降は今季まで対戦が無いので、あまり参考にはならないだろう。今季は 3/2 (土)・アウェイ第 2 節で 0-1、そして 3/13 (水) にルヴァン杯 1 回戦で 1-2。ホーム最終戦で対戦するにはハードルが高い相手だが、これを乗り越えなければ希望は見えてこない。

大宮のチーム得点王は #23 杉本健勇の 7 点と、意外に少ないのだが、逆にどの選手でも得点できる実力を持っているチームと言えるだろう。従って、すべての選手が要注意選手といっても過言ではない。対する岐阜としては、まずは全員での守備を徹底させることが必要不可欠だ。ただし、大宮は優勝が決まり、来季 J2 でのチーム体制を試行している状況でもある。ここに、勝利の可能性があるということもできるだろう。

長かったはずの 2024 シーズンも、もう残り 2 試合。まだプレーオフの可能性が残されているが、どのような結果でも、また新しいシーズンがやってくる。チームを去る選手と来る選手で入れ替わり、また新たなチームが始動することになる。まずは今節も試合終了後に「HYPER CHANT」を歌ってホーム最終戦を締めよう。そして、どのカテゴリーになっても、来季も再び、ホームスタジアム・岐阜メモリアルセンター長良川競技場に集い、僕らのクラブ・FC 岐阜を支え続けよう。(ささたく)

投稿募集!! gidaidohri@gmail.com

【第35節】岐阜 2-0 FC 大阪

●雨の影響で、所々ピッチ上に水が浮きボールが止まってしまうようなコンディション、そんな中始まった試合。前半は大阪がどんどん縦にボールを入れて押し込んでくる時間帯が長かった。ここを凌いで無失点で折り返すことが出来たのが大きかったかな。

後半は岐阜の時間帯が長くなる。そして北龍磨のCKからこぼれたボールを後ろから詰めた松本歩夢のゴールで先制！左足のインサイドで浮かさないようにキッチリ抑えた綺麗なゴール。程なくして追加点、縦のスペースに出たボールに長いスプリントで追い付いたのは西谷亮。味方の上がりを持って中に入れたボールに合わせたのはこれまた長い距離を走ってきた北。ゴール決めた後のゴール裏まで走ってきたのセレブレーション、サポーターのココロを鷲掴み。そのまま2-0でグリーンシート！

これで4連勝。このままもしかしたらもしかして、なんていう気持ちもツツツと湧いてくるけれど、残り3試合無心に無欲に自分たちのサッカーをやり切ることがまず大事。そうすれば結果は必ず付いてくる。(岐阜の誇り)

●あいにく朝から降り続く雨。さすがに排水機能が改修された長良川のピッチでも、至る所に水たまりが。まあ、一昔前の“田んぼ”に比べると、それでも遙かにマシなんですけど、サッカーには影響の出るレベル。そして、こういったピッチでは、縦へのボールを重視しているFC大阪のサッカーの方が親和性が高い。そして実際に、このピッチ状況に対応した、シンプルで走力を活かしたサッカーを序盤から展開。一方の岐阜は、水たまりにボールをとられて思うように攻撃ができず、受け身になってしまう時間帯が長く続く。それでも粘り強い守備で無失点に抑えて前半を折り返す。

ハーフタイムに入り、あれは“大型吸水ローラー”って言うのかしら？が長良川に久しぶりに登場。小雨になって排水機能が機能したこともあって、岐阜の選手たちもやりやすい状況に。そしてFC大阪の選手たちが序盤から飛ばしていたので徐々に足が鈍ってくる中、後半25分にCKを相手が弾いたボールがフリーの#19松本歩夢の前に転がってきて……たぶん岐阜側の観客全員が「撃て！」って叫んだ直後(笑)、コースを狙い澄まして、インサイドでしっかりと当てたミドルは相手のブロックをすり抜け、待望の先制点！その後は攻勢を強めたFC大阪に押し込まれるけれど、その展開での後半30分、ロングカウンター……というか、相手DFの頭上を越えて縦にクリアされたボールに、相手が追いつこうとすると、その背後を猛追する岐阜の選手。恥ずかしながら、その瞬間には#16西谷亮だと分からなかったことを、懺悔と共に告白します(笑)。そして、あっという間にDFを抜き去ってボールを奪って右サイドを突破し、タイミングを計った上で、後ろから中央を走ってきた#6北龍磨にパス。これをダイレクトで撃ったシュートがネットを揺らして追加点！そして、その後は試合をきっちりとクローズにかかり、無失点の2-0で勝利。苦しい試合展開の溜飲を下げる、快勝と言ってもいい勝利、そして4連勝！いやー、2か月ほど前、アウェイ讃岐戦で惨敗(0-4)して、絶望のどん底にいた自分に、「こういう試合が見られるんだよ」って、教えてあげたい気分です(苦笑)。惜しむらくは、観客が3,500人にも届かなかったこと。せっかくSKEやチアドラがやってきて集客効果が見込まれていたのに、寒かったし仕方ないんだけど、天気が1日ずれてくれたらなあ……。まあ、こういう試合を続けていけば、お客さんも再び増えてゆくでしょう。そう信じています。(ささたく)

●まず、最初に言いたいのは「11月にもなって、こんな雨の降り方はカンベンしてちょーだい！」というコト。雨でなければ、もっと多くの人にこの試合を見てもらうコトが出来たのに。残念至極。

とはいえ、禍福は糾えるなんとやら。雨のおかげでメインスタンドもバックスタンドも観客が屋根下に密集。たぶん、大

阪サポさん以外の熱気が手拍子、声援に乗っかって、ソレが屋根にこたまして、少なからず感動モノの後押しになった、というのは誇張だろうか？

キックオフ直後から、ピッチ状態を意識してのセーフティ・ファースト。ロングボールの応酬となったが、あんなに脚をぶん回してたら、特に最終ラインが後半どこかでバテるんじゃないか？とハラハラしてた。そんな中で、ゴール前で理詰めに攻めようとするウチと、とにかく、前に！という強い意志を示すアウェイチーム。迫力という点では「圧倒的」とも思われた攻撃だったが、ソレを無失点で抑えたのが勝因のひとつと言えるんじゃないかな？

そうして、迎えた勝負の後半。先にバテたのが大阪だったコトには驚いた。ダメ押しゴールの場面では、西谷が「代表に呼べよ！」ってくらいのロング・スプリント、前にいるDFを追い越すとかいう驚異の走りを披露したんだけど、アレは完全に相手が燃料切れしてただけだよ(苦笑)。しかし、ホント~によく走り抜いてくれました。素晴らしいよ、西谷くん。そろそろ、岐阜に家買わないか？そして、彼のボール奪取を見てのフォローが龍磨以外にも3人くらい？アタッキング・サードからゴール前まで完全に数的優位を形成して、誰がパスを受けてもミスさえしなきゃゴールになるような展開だった……。本当にFC岐阜か？と目を擦りたくなる感じ。傲慢かまさせていただきますけど、控えめに言って『完勝』でした。そして、コレがようやくのFC大阪からの初勝利。いや~、手強かった。それでも、この日のような『6ポイント・マッチ』で勝ち切った、というのはデカイゾ！

いや、ホントにこの日の出来は最高だった。オマケに、終了間際に虹はかかるし、試合後のサンサンデッキから眺める黄金色の夕景は、ソレを肴に呑めるレベル。しばし、この余韻に浸りたい。それでも、あたりまえだが、次の試合がやってくる。もちろん、こちら『6ポイント・マッチ』。厳しい相手だが、下剋上を成し遂げる為には勝たなきゃなんない。現地で精一杯の応援してきます(当社比)。(ぐん)

●雨ざんざで重いピッチ。これはFC大阪に有利な条件だと思った。案の定、前半はパワーで押し込まれる時間が長い。しかし、後半は雨もおとなしくなり、ハーフタイムの『ローラー大作戦』の効果もあってピッチ状態は改善。前半のパワー攻撃で動きが鈍くなってきたFC大阪守備陣に対して攻勢に転じ、CKから流れたボールにアユムがワンタッチで先制点。5分後には西谷が競輪用語でいう『カマシ』(瞬間的に圧倒的加速を掛けて相手を置き去りにすること)で疲労した相手DFを振り切り、戻したところに北がワンタッチ。素晴らしいゴール、試合のコントロール。昇格争い参加チームにふさわしい内容だった。ああ、このやり方にもっと早くたどりついていれば。(吉田鑄造)

【第36節】富山 2-2 岐阜

●J参入以降では、クラブ史上初の5連勝が掛かった試合。そしてプレーオフ圏に入るために勝ち続けなければならない試合。3位の富山は6試合未勝利で、しかし逆に、勝利に飢えた“手負いの獣”の如く、注意が必要な相手。そして実際、試合は序盤から激しいボール争いと一進一退の攻防をみせる展開に。お互いにチャンスを作るが決めきれず、そのまま両チームともスコアレスで折り返す。後半になると試合は動き、後半10分に富山のCKから先制点を許してしまう。しかし、同点に追いつくべく岐阜が攻勢をかけると、後半27分に今度は岐阜のFKに#4甲斐健太郎がヘッドで合わせて同点！そして、後半36分には、再び岐阜のFKを今度は#39遠藤元一のヘッドで逆転！いやもう、セットプレーでの得点の応酬に、僕の心はジェットコースター状態でしたわ(苦笑)。その後は、再び攻勢をかける富山に対して、粘り強く、少しずつ時間を使いながら守る岐阜。あと少し……だけど、サッカーの神様は、時に残酷だ。最後のワンプレー、ほんの少しのミ

スで相手にボールが渡ってしまい、振り抜いたシュートが岐阜のゴールを揺らしてしまふ。そして、そのまま試合終了。あまりに劇的な引き分け。掴みかけていた勝利が、するりとこぼれ落ちてしまった。本当に悔しい。だけど、ホームで富山も必死だった。岐阜サポーターが1,000人ぐらいらしいので、4,500人の富山サポーターの迫力が、その同点弾を引き寄せたとも言えるかもしれない。

試合後、旧知の富山サポと10数年ぶりに再会した。開口一番、彼は「昨年のホーム戦の借りは返した」。そーいや、昨季は後半A Tでウチが同点に追いついたんだ（苦笑）。そして富山は勝点で鹿児島に並ばれて、得失点差で昨季3位に終わり、J2昇格を逃したんだ。こういった因縁の積み重ねが良い方向に向かうのなら、それは今後の対戦に深みを増すのだろうという思いが、悔しさで歯ぎしりしながら僕の頭をよぎった。だけど、まだ最後まで諦めない。まずは再び勝ち続けること。その先に希望が見えるはずだ。（ささたく）

●試合はドロー。土壇場で追いつかれるという痛恨の結末。表示の6分はとうに過ぎて、あとワンプレーを凌ぎさえすれば……という状況だっただけに、返す返すももったいなかった。最終盤はただ蹴り返すだけになってしまて、キープ出来なかったのが痛かったね。いや、ホンット〜に勝ちたかったなあ……。

勝ち越してから、最終盤まで耐えてたんだけど、ゴツツを始め3人くらいが脚にキてしまて、そのリカバリーにかかった時間も失点の要因になったのかな？で、ソレを見た他の選手もアドレナリンが切れたというか、我に返ってしまったというか、憑きモノが落ちたみたいない感じでいきなりカラダの重さをわかってしまったのかもしれないね。逆に言えば、それまで力を出し尽くしたってコトだ。心に響く試合をありがとう！

今節は上位が、ほぼ順当勝ち。コレで圏内までは4ポイント差に。土壇場も土壇場。薄皮一枚くらいのチャンスしか残ってないけど、とにかく、出来るコトをやるしかないからね。あと、ビッグ・フラッグの掲出も忘れちゃいけない。搬入は手伝えなかったけど、本番はスタンド最上段からの送り出し、そして、搬出のお手伝いには参加出来た。アレが本来の半分っていうのがとんでもないね。いったい、どこまで広がっていくのか。来季以降が楽しみだ（笑）。（ぐん、）

●ラストプレーでの同点ゴールの瞬間、もちろん脱力したけど、3秒と経たずに「しょうがないな」という割り切ることが出来た。

実際、今治のように「よくわからんけど今日は緩いじゃん」という感じでも、FC大阪のように「雨だってんでパワー全開で来てるけど、ちゃんと凌げば後半には止まるよね」という感じでもなく、富山は普通に強かった。岐阜の良さはしっかり消し、カウンターでガッツリ仕掛ける。後半には先制だつてされた。しかし、セットプレーからヘッド2発で逆転。残り時間、わずか。でも、富山の選手は折れてなかった。ホームチームの「負けるわけにはいかない」という強い思い、執念。この執念を見たら、感じたら、富山サポはまた県陸に足を運ぶだろう。ぼくら岐阜サポも「次こそは、富山で勝つぜ！勝たせるぜ！」と片道200kmの距離を越えてビッグフラッグを運び込む……かも？（苦笑）。うん、熱い試合だったよ。（吉田铸造）

【ホーム最終戦恒例】 今季のベストゲーム・ベストゴール・MVPは？

◆ベストゲーム

第7節 アウェー 松本戦

●逆転勝ちの長野戦、雨中の完勝の大阪戦など、長良川での勝利の余韻に浸りたいところではあるけれど、どうしても、この試合を選ばざるを得ない。終了間際の決勝ゴール。そして、相手とスタジアム。ここでの勝利は殊更に嬉しく感じる性分です（苦笑）。

しかも、この試合。同点ゴールを決めた相手の6番クンが、あろうことか、ウチらサイドに向けて「挑発」としか思えないポーズをしてくれやがりまして。結果から見れば、実にありがたい燃料投下。勝利を味わうための絶妙なスパイスをプレゼントしてくれて。で、その彼が試合後にホームチームの選手から選ばれる『敢闘賞』なるモノをいただいで。いや〜、「負けた試合で敢闘賞か。おめでとう！」とほくそ笑みながら帰路に着いたワケで。彼が長良川に来たら、ゼツタイ「カントーショーくん！」と呼んでやろう……と思ってたのになあ。なぜか、来なかったんだよ。臆したのかな？（笑）。あ、カントーショーくんが暴れた時、彼を嗜めつつ、ウチらに「ごめんね？」と謝ってた10番の菊井クン。いい選手だね、プレーも存在感もヤバかった。よかったらどうかな？ウチでやってみないか？ただ、残り2試合がいずれも今季のベスト・ゲームとなるコトを願ってやみません。よろしくお祈いします！（ぐん、）

第34節 ホーム 今治戦

●シーズン序盤と終盤にしか、個人的な候補が無いのは非常にアレなんです（苦笑）、2位・今治に大勝したホーム戦を挙げます。非常に軽い1失点が唯一の問題点なのですが、逆にその失点後の、ピッチ上での選手全員での円陣が実に壮観でした。その円陣でチームが引き締まって、追加点2点を挙げたのも実に印象深いです。もちろん、このホーム最終節・大宮戦が今季のベストゲームとなることを願っています。（ささたく）

●絶対に負けられないゲームを全員の力で勝ち切ったのは大きかった。（岐阜の誇り）

●ぶっちゃけ、対戦相手の「アシスト」があったのは否定しない。でも、みんなでフリーの選手を作る、そのフリーの選手が決める、という『共和制サッカー』の具現を観た思いがする。唯一のネガティブは、このやり方にたどりつくまでに『時間をかけ過ぎた』ことだね。（吉田铸造）

◆ベストゴール

No.16 西谷亮 第34節(10/26) ホーム今治戦

●あの時間帯に、あのタイミングで、あの難しいコースに美しい軌道のシュートを撃てるというのが、流石は“ヴェルディっ子”と言うべきか。相手GKが一步も動けずという姿も、1点獲られて傾きかけた試合の流れを引き戻したという効果も、正にゴラッソでした。（ささたく）

●ベストゴールは西谷亮が挙げた3点目のゴール。今治GKセラテスが一步も動けなかった鮮やかなゴールだったね。（岐阜の誇り）

●「これがJ1の選手の『技術』かあ」……と唸ってしまう、ワンタッチのコントロール・ミドル。でも、この試合を観ていた知人（西谷の保有権を持つチームのライバルチームのサポ）は「あれくらい出来て当たり前」と、こともなげ。嗚呼、これがJ1とJ3の立ち位置の差か……と涙を落とせばりぬ。（吉田铸造）

●悩みました。ベスト・ゲームに挙げたアウェイ・松本戦での大吾やあいチャン。久々の勝利を呼び込んでくれたアウェイ・YS戦のあいチャン、ヤバい雰囲気になった中でのトドメとなったアウェイ・鳥取戦でのヒロフミ。勝利を渴望してた中での、アウェイ・宮崎戦での寺阪。ホームでの大逆転となった西谷と龍磨。

ホント～に悩んだんだけど、長良川での大阪戦。先制弾となったアユムのミドルを今季のベスト・ゴールに選出させていただきます！

常日頃から「前が開いたら、チャンスがあるなら打て！」とミドルを要請。しかも「打つんなら粹！」と公言して憚らないワタクシ。ソレを受けて「わかりました。こう、打つんですよね？」とばかりにインサイドで柔らかく、はんなりと当てたゴールでビール3杯は呑める。

このシュートよりもイージーな場面なのにフカしてしまった、富山での○○ちゃん。もう一度、アユムのシュートを見直すように。約束だよ？

ただ、残り2試合で今季のベスト・ゴールが（以下、ベスト・ゲームと同文）（ぐん、）

◆MVP

No.6 北龍磨

●シーズンを通じて活躍した選手を選ぶべきで、その観点では#11 藤岡浩介だろうと思うのですが、かなり悩んだ結果、#6北選手を選びます。直近7試合で、#23 萩野滉大とのボランチコンビでスタメン起用されてから、その豊富な運動量でチームを活性化させて5勝1分1敗。自身も3ゴールを挙げ、セットプレーのキッカーとしても活躍。周囲の選手たちを鼓舞し、ゴール裏にはブーイングでは無くチャントを要求して煽り、得点を決めた後には真っ先に駆け寄ってサポーターと喜びを分かち合う姿。個人的に推せる要素が詰まってて……（笑）。結婚して公私ともに充実してると思うので、すぐにも岐阜に新居を構えてもらいたいところ。ほらほら柏木ご夫妻、「岐阜の良いところ」をいっぱい教えてあげて！（笑）（ささたく）

●夏場以降試合毎に増していく存在感。ゴールやセットプレーの時にサポーターを煽ってくれるのもいいね。（岐阜の誇り）

No.16 西谷亮

●う～ん、こちらも悩みました。当然ですよ。しばし、のたうち回って（比喻ですよ？）悩んだ末に選んだのは西谷でした。

開幕してから富山戦まで、そして、たぶん、最終節まで彼がいることによって前線が回る。

ヴェルディ出身らしい卓越したセンスとシャレたプレー。その上で、長良川での大阪戦のような激走まで披露してくれる。二十歳とは思えないようなプレーの数々。

どうだろう？そろそろ、岐阜で土地とか家とか買わないか？（野澤も、な）（ぐん、）

●今季は多くの選手をレンタル補強し、それでまわした部分はある。でも、かつて金沢から借りていたけど完全移籍してくれたクボリョウ君みたいに、岐阜に残ってくれないだろうか、いわゆる『借りパク』出来ないだろうか……と考えると、その第一候補は西谷になる。

レンタル元チームはJ1にいる。本人だって、J3でプレーするのは不本意だろう。それでも、「まだ若いからわからんかもしれないが、岐阜はいいところだぞ」と現・鵜飼船の船頭さんが肩を叩いて囁いてくれたりすると……？（笑）（吉田铸造）

今季の、そして 来季のFC岐阜へ。

●まだ終わっていませんが、今季も無事にシーズンが過ぎました。試合運営に御尽力された多くの関係者の皆さまに対して、心からの感謝と敬意を申し上げます。さて、まずは過去5年間のJ3での、FC岐阜の戦績を見てみます。

2020年

34試合 16勝8分10敗・勝点56：6位/18チーム
（勝率0.47・1試合当たり勝ち点1.65）

50得点39失点（平均1.47得点1.14失点）

2021年

28試合 12勝5分11敗・勝点41：6位/15チーム
（勝率0.43・1試合当たり勝ち点1.46）

38得点35失点（平均1.35得点1.25失点）

2022年

34試合 10勝7分17敗・勝点37：14位/18チーム
（勝率0.29・1試合当たり勝ち点1.09）

43得点53失点（平均1.26得点1.56失点）

2023年

38試合 14勝12分12敗・勝点54：8位/20チーム
（勝率0.37・1試合当たり勝ち点1.42）

44得点35失点（平均1.16得点0.92失点）

2024年

36試合 14勝7分15敗・勝点49：11位/20チーム
（勝率0.38・1試合当たり勝ち点1.36）

60得点54失点（平均1.67得点1.50失点）

……いやあ、こうやって数字を並べて比較してみると、昨季よりも成績悪いんだなあ（苦笑）。やっぱり、この終盤での“帳尻合わせ”的なチームの躍進と、今季からJ2昇格プレーオフが導入されたというのが、シーズン全体の印象を大きく変えているような気がします。まあ、2か月ほど前までは「このままではJFL降格も……」と不安ばかりでして、ホーム最終節までプレーオフの可能性を、ほんの僅かだけ残していて、最後までワクワクできるとは、夢にも思いませんでした（苦笑）。ようやく歯車が噛み合った現在のチームの姿は、本当に誇らしいし嬉しいです。あと1か月、こういう試合ができるようになるのが早ければ……と、ついつい思わずにはいられません。そして、それまでに失った勝利・勝点があまりにも多すぎます。今季がどのような結果になろうとも、それまで負け続けていたチーム編成の問題を、フロントは真摯に総括してもらいたいと思います。

意識して見るようになって改めて分かったのですが、日本代表のサッカーって、日本トップの個人技を持つ選手たちが集められて、その個人技が積み重なることで成立しているんですよ。だけど、残念ながらJ3の岐阜の選手たちでは、それが成立できない。だったら、そういうサッカーは諦めるべきだし、足りない技術を全員のフィジカルで補強して、ボールも人も動かし続ける、今の岐阜のようなサッカーを最初から志向するべきなんじゃないかと、改めて痛感します。特にカテゴリーが下がるにつれて、フォアプレスが効くし、フィジカルを重視するサッカーが強い傾向にあると思います。ただ、フィジカル“だけ”重視のゴリゴリなサッカーは、個人的にはあまり好きではないのですが（笑）。ベテラン選手というだけで軽視するつもりはありませんが、来季の編成では、最後まで走ることのできる選手、戦うことのできる選手でチームを編成していただきたいと本気で思います。そして来季のチームを指揮する監督も、この視点で選んで欲しいと思います。一方で、毎年夏場に酷暑の岐阜で、調子を落として負け続けてしまうチームのコンディション調整、あるいはフィジ

カル(走力)強化が、本当に懸案事項です。本当に何とかなら
らんですかね……(溜息)。キャンプ中にみっちりフィジカル
を鍛え上げてシーズンに臨めば、少しは何とかなるのかしら?
お金が掛かるとは思いますが、練習もナイターでやるとか、
もう少し工夫が必要なんじゃないかと思ひます。

まだ僕はプレーオフを諦めてはいませんので、来季はどのカ
テゴリになるか不明ですが(笑)、いずれにしても、ルヴァ
ン杯も天皇杯も昇格プレーオフも、そして自動降格もあるリー
グになります。しかも2/14(金)には史上最早でリーグ開幕
戦を迎えるという、なかなか慌ただしいスケジュールです。
(ピッチ内外の)試合運営は今季も素晴らしかったです。自他
共に認めるJ有数のスタグルをはじめ、J3で圧倒的な“地域
のお祭り”を、今季もしっかりと楽しませていただきました。
まあ来季も、文句や愚痴を言いながら、僕は『このクラブとチ
ームを応援(サポート)』します。そしてサッカーが地域にある
日常、スポーツで生活が豊かになる社会、つまりは『Jリー
グ百年構想』を、僕は来季も、一生懸命に謳歌します。

なお、今季もまた、『岐大通』をスタジアム内で配布させてい
ただきました。クラブの格別のご配慮に、心から感謝申し上
げます。来季の配布は……なんですが、僕ら『岐大通』の制
作体制は、既に高齢化が進みすぎていまして(苦笑)、大変に
ヤバいことになっております。少しでも構いませんので、記
事投稿や、配布のお手伝いをしてくれる方を大募集しており
ます。

それではまた、(多分プレーオフはアウェイ2連戦になるので)
来季の『岐大通』でお会いしましょう!(ささたく)

●ホーム最終戦を前に飛び込んで来た庄司悦大選手の引退情
報。またしても、一つの時代が閉じてしまったな……と言う
のは大袈裟かもしれない。けれども、その特異なプレーの数々。
庄司悦大にしかあり得ないプレーを忘れるコトはないだろう。
ウチに関わってくれて、ウチで締めくくってくれてありがと
う。前途に幸多からんことを祈ります。

さて、今季の総括。良くも悪くも、というか、いかにもウチ
らしいシーズンでした。いや、少なくとも、ここ直近2年と
比べると、かなり、納得できるとも言える、かな?勝ち点
的にも試合内容にも希望を残せている点で(来季も同じメン
バーで戦えないのは承知だけれども)。

ただ、終盤の4連勝のおかげで『プレーオフ』への夢が繋がっ
てるだけの現状。ホーム金沢戦で勝利を得るまでは『JFLとの
入れ替え戦』を余儀なくされそうになった事実。コレはいか
んともしがたいよね?

「岐阜の暑さは度し難い。異常。」という環境はわかっている
ハズ(だよな?)なのに、毎度、毎度で同じような停滞、不
調を繰り返すのはなぜなのか?指揮官はもちろん、選手が代
わってもパフォーマンスが同じなら、選手構成や戦い方の基
本を変えるより手はないハズだ。どんな戦術よりも、どんな
選手を揃えるか。岐阜の風土でもシーズン通して戦える選手。
ソコを揃えて、初めて『岐阜スタイル』が出来上がるんじ
ゃないのかな?どれだけ、モダンな戦術や戦略を用意してもや
り遂げられないし、積み重ねられないんじゃ意味がない。そ
れどころか、見ている方まで疲弊しちゃうよ(苦笑)。

何度も言いますが、試合を取り巻く環境、長良川のスタジア
ムは素晴らしい。あとはメインディッシュだけ、なんです。
この場所で、勝利をもたらしてくれる陣容を整えるコト。ソ
レが『FC岐阜へのフィロソフィー』になるんじゃないのかな?
来季はソレを期待します。(機会があったら聞いてみたいね。
機会があったら、ね。ありそうな気はする。)(ぐん、)

●今季の第7節終了時点の順位表では、(東北の3チームの
ホーム戦が4月に延ばされたこともあるが)首位はFC岐阜
だ。第1節終了時点とかの『瞬間最大風速』ではない。それが、
第31節終了時点では残留ラインまで勝ち点6の14位にまで
落ちるわけだ。

気配は見えていた。第7節・アウェイ松本戦。試合終了ギリ
ギリの決勝点、アルウィンでは11年ぶり2度めの勝利。そりゃ

興奮しますし帰りの『しなの』車内では美酒を味わいましたが
この試合は右サイドの石田を抑えられ、「ほぼ100%松本の試
合」。対戦相手からすると『岐阜のサッカーには対応出来る』。
ここから△△●△●●●△●○○●○○△●●●○○●●●●●
●○○○○△。放蕩生活で見事に貯金を使い果たし、最後に
悔い改めてちょっとだけ盛り返す、そんなシーズンだった。
日本代表が快進撃を続けた今年のW杯アジア三次予選を視て
いて「前・監督の上野さんはこういったサッカーを岐阜でや
りたかった、岐阜の選手にやらせたかったんだろなあ……」
というのは結構強めに感じた。動きにすべて「意味」があり、
パスは強く正確で、受けた選手もキチンとパスを止めて、連
動している次の動きに沿った攻撃が出来る。そりゃ美しいよ。
岐阜の監督に就任する前は代表チームのコーチを勤めていた
上野氏がそうした志向になるのはわかるし、ビッグクラブの
下部組織でのサッカー経験者の小松社長が「うんうん、それ
は美しいね」と頷いてしまう(←妄想)のも理解できる。問
題はそのサッカーが岐阜の選手に出来るか、そのサッカーは
岐阜に所属の選手の志向にあっているのか、だ。もちろん、
PDCAを繰り返せば、出来ないにしても近づくことは出来る
だろう。でも、それまでにどれだけの時間がかかるのか。我々
がいるのは下部リーグ、岐阜の北東に位置する同じ緑色のチ
ームのサボ氏が言うところの『最底辺プロリーグ』だ。シー
ズン終了までに完成しなければ、良素材は上位カテのチ
ームに持ち去られてしまう。そしてまた組み直し。

「教え込める時間で出来ることをガッツリ教え込む」福島
の寺田監督、「出来ないことはやらせない」を徹底する八戸の石
崎監督の『リアリスト』ぶりがどうしても光って見える。おそ
らくは選手の総人件費は岐阜より低いはずのこの両チームが、
なぜ岐阜より上位にいるのか。それは、特に下位カテゴリー
のプロ・サッカー興行においては『売掛金』商売は成り立た
ないからだ。現金決済、『日銭を稼ぐ』サッカー。

天野監督に「暫定」が取れて、さらに大橋コーチが就いてから、
3バックで重心を後ろめにして、特定の選手のパス出しのセ
ンスに頼る「王制」サッカーから「共和制」サッカーにして、
見事に前線が活性化。J3残留を決め、さらにホーム最終節を
迎えてもJ2昇格プレーオフの夢が見えているくらいにまで成
績を上げることが出来た。やっているサッカーは『日銭を稼ぐ』
タイプ。だったら、最初からそれではダメなのか……と思う
けど、やはり小松社長が浦和ユース出身なのは(ネガティブに)
効いているのかもしれない。浦和は経営の規模も大きく選手
の質も高いので、『売掛金』商売でここまでビッグに出来たの
だろう。でも、その経営モデルはいまの岐阜では成立しない
のです。

シーズン終了にあたり、まずは小松社長に「FC岐阜の社長
になって3年経ったわけだが、そろそろ『フィロソフィーの
構築』について中間報告があってもいいのではないか」とは
訊ねたい。あと、いい加減「岐阜の暑い夏」は熟知してい
ると思うのだが、どうしてこも著名(当社比)なベテラン選
手に頼ろうとするのか?も訊ねたい。

そろそろシーズン通して『リアリズム』で戦ってみましょ
うよ小松社長。『リアリズム』で戦いながら「昇格」という夢
を現実にするっての、やってみましょうよ。でも、小松社長の
考えるクラブ運営のフィロソフィーが「サボには『J2昇格』
という夢を、適度に、そして適当に与えておけばいい。『生か
さず殺さず』だ」ってのなら、もうしょうがないのですが、
それってある意味で『詐欺商法』だと思ふ。(編集人:吉田铸造)

■おことわり:

この『岐大通』大宮戦号は11/12締切で作成
しています。締切後にクラブから契約更新、
満了の発表があった場合も、その情報は反映
されていません。ご了承ください。